

平成 21 年度 九州大学 2 次試験前期日程 (数学問題)120 分
文系 (文学部, 教育学部, 法学部, 経済学部 (経済・経営))

- 1 $\angle A$ が直角の二等辺三角形 ABC を考える。辺 BC の中点を M とし, 線分 AM を $1:3$ に内分する点を P とする。また, 点 P を通り辺 BC に平行な直線と, 辺 AB, AC との交点をそれぞれ Q, R とする。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1) $\cos \angle QMR$ を求めよ。
(2) $\angle QMR$ の 2 倍と $\angle QMB$ の大小を判定せよ。

- 2 座標平面に 3 点 $O(0, 0), A(2, 6), B(3, 4)$ をとり, 点 O から直線 AB に垂線 OC を下ろす。また, 実数 s と t に対し, 点 P を

$$\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$$

で定める。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1) 点 C の座標を求め, $|\overrightarrow{CP}|^2$ を s と t を用いて表せ。
(2) $s = \frac{1}{2}$ とし, t を $t \geq 0$ の範囲で動かすとき, $|\overrightarrow{CP}|^2$ の最小値を求めよ。
(3) $s = 1$ とし, t を $t \geq 0$ の範囲で動かすとき, $|\overrightarrow{CP}|^2$ の最小値を求めよ。

- 3 1 から 6 までの数字が 1 つずつ書かれている 6 枚のカードがある。これらをよくきった上で, 左から右に一列に並べる。カードに書かれた数字を左から順に a, b, c, d, e, f とする。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1) $a + b = c$ となる確率を求めよ。
(2) $a + b = c + d$ となる確率を求めよ。

- 4 曲線 $y = x^2$ の点 $P(a, a^2)$ における接線と点 $Q(b, b^2)$ における接線が点 R で交わるとする。ただし, $a < 0 < b$ とする。このとき, 次の問いに答えよ。

- (1) 点 R の座標および三角形 PRQ の面積を求めよ。
(2) 線分 PR と線分 QR を 2 辺とする平行四辺形 $PRQS$ とする。折れ線 PSQ と曲線 $y = x^2$ で囲まれた図形の面積を求めよ。
(3) $\angle PRQ = 90^\circ$ をみたしながら P と Q が動くとき, (2) で求めた面積の最小値を求めよ。

解答例

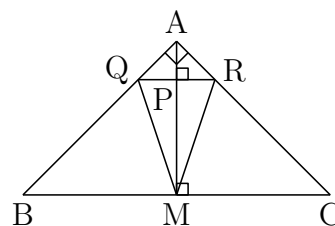
- 1 (1) 求める三角比は、三角形の大きさに関係しないので、右の図において $AP = 1$ とすると

$$PM = 3, PQ = PR = 1, QR = 2,$$

$$MQ = MR = \sqrt{3^2 + 1^2} = \sqrt{10}$$

余弦定理により

$$\cos \angle QMR = \frac{(\sqrt{10})^2 + (\sqrt{10})^2 - 2^2}{2 \cdot \sqrt{10} \cdot \sqrt{10}} = \frac{10 + 10 - 4}{2 \cdot 10} = \frac{4}{5}$$



- (2) $MB = 4, MQ = \sqrt{10}, BQ = 3\sqrt{2}$ であるから、余弦定理により

$$\cos \angle QMB = \frac{4^2 + (\sqrt{10})^2 - (3\sqrt{2})^2}{2 \cdot 4 \cdot \sqrt{10}} = \frac{16 + 10 - 18}{2 \cdot 4 \sqrt{10}} = \frac{1}{\sqrt{10}}$$

(1) の結果から $\cos 2\angle QMR = 2\cos^2 \angle QMR - 1 = 2\left(\frac{4}{5}\right)^2 - 1 = \frac{7}{25}$

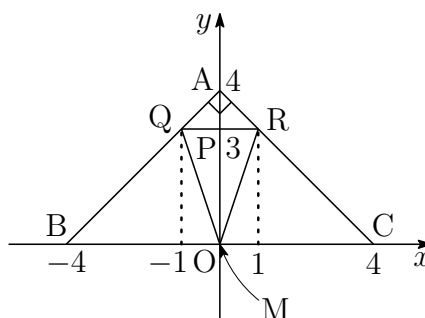
ここで $\frac{1}{\sqrt{10}} - \frac{7}{25} = \frac{5\sqrt{10} - 14}{50} = \frac{\sqrt{250} - \sqrt{196}}{50} > 0$

よって、 $2\angle QMR, \angle QMB$ は鋭角であるから $2\angle QMR > \angle QMB$

別解 M は BC の中点であるから、M を原点にとる。このとき、求める三角比は、三角形の大きさに関係にしないので、右の図のように

$$A(0, 4), B(-4, 0), C(4, 0),$$

$$P(0, 3), Q(-1, 3), R(1, 3)$$



とすると、 $\vec{MQ} = (-1, 3), \vec{MR} = (1, 3), \vec{MB} = (-4, 0)$ であるから

$$\cos \angle QMR = \frac{\vec{MQ} \cdot \vec{MR}}{|\vec{MQ}| |\vec{MR}|} = \frac{-1 \cdot 1 + 3 \cdot 3}{\sqrt{(-1)^2 + 3^2} \sqrt{1^2 + 3^2}} = \frac{4}{5}$$

$$\cos \angle QMB = \frac{\vec{MQ} \cdot \vec{MB}}{|\vec{MQ}| |\vec{MB}|} = \frac{-1 \cdot (-4) + 3 \cdot 0}{\sqrt{(-1)^2 + 3^2} \sqrt{4^2 + 0^2}} = \frac{1}{\sqrt{10}}$$

2 (1) Cは直線AB上にあるから、実数 α を用いて

$$\begin{aligned}\vec{OC} &= \alpha\vec{OA} + (1-\alpha)\vec{OB} \\ &= \alpha(2, 6) + (1-\alpha)(3, 4) \\ &= (3-\alpha, 4+2\alpha)\end{aligned}$$

$\vec{OC} \perp \vec{AB}$, $\vec{AB} = (3, 4) - (2, 6) = (1, -2)$ であるから

$$(3-\alpha) \cdot 1 + (4+2\alpha) \cdot (-2) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \alpha = -1$$

したがって **C(4, 2)**

与式および上の結果から

$$\begin{aligned}\vec{CP} &= \vec{OP} - \vec{OC} = s\vec{OA} + t\vec{OB} - \vec{OC} \\ &= s(2, 6) + t(3, 4) - (4, 2) \\ &= (2s+3t-4, 6s+4t-2)\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{よって} \quad |\vec{CP}|^2 &= (2s+3t-4)^2 + (6s+4t-2)^2 \\ &= 40s^2 + 25t^2 + 60st - 40s - 40t + 20\end{aligned}$$

(2) $s = \frac{1}{2}$ を (1) の結果に代入して

$$|\vec{CP}|^2 = 25t^2 - 10t + 10 = 25 \left(t - \frac{1}{5} \right)^2 + 9 \quad (t \geq 0)$$

したがって、 $|\vec{CP}|^2$ は、 $t = \frac{1}{5}$ で最小値 **9** をとる。

(3) $s = 1$ を (1) の結果に代入して

$$|\vec{CP}|^2 = 25t^2 + 20t + 20 = 25 \left(t + \frac{2}{5} \right)^2 + 16 \quad (t \geq 0)$$

したがって、 $|\vec{CP}|^2$ は、 $t = 0$ で最小値 **20** をとる。

3 (1) $a + b = c$ を満たす $a < b$ の組は、次の 6 通り

$$c = 3 \text{ のとき } (a, b) = (1, 2)$$

$$c = 4 \text{ のとき } (a, b) = (1, 3)$$

$$c = 5 \text{ のとき } (a, b) = (1, 4), (2, 3)$$

$$c = 6 \text{ のとき } (a, b) = (1, 5), (2, 4)$$

このとき、 $a > b$ の場合も含めて $6 \times 2!$ 通りある。また、 d, e, f の並べ方が $3!$ 通りあるので、求める確率は

$$\frac{6 \times 2! \times 3!}{6!} = \frac{1}{10}$$

(2) $a + b = c + d$ を満たす $a < b, c < d$ の組は、次の 14 通り

$$a + b = 5 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (1, 4, 2, 3), (2, 3, 1, 4)$$

$$a + b = 6 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (1, 5, 2, 4), (2, 4, 1, 5)$$

$$a + b = 7 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (1, 6, 2, 5), (2, 5, 1, 6), \\ (1, 6, 3, 4), (3, 4, 1, 6), \\ (2, 5, 3, 4), (3, 4, 2, 5)$$

$$a + b = 8 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (2, 6, 3, 5), (3, 5, 2, 6)$$

$$a + b = 9 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (3, 6, 4, 5), (4, 5, 3, 6)$$

このとき、 $a > b, c > d$ の場合も含めて $14 \times 2! \times 2!$ 通りある。また、 e, f の並べ方が $2!$ 通りあるので、求める確率は

$$\frac{14 \times 2! \times 2! \times 2!}{6!} = \frac{7}{45}$$

4 (1) $y = x^2$ を微分すると $y' = 2x$.

点 $P(a, a^2)$ における接線の方程式は

$$y - a^2 = 2a(x - a) \quad \text{ゆえに} \quad y = 2ax - a^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

同様に、点 $Q(b, b^2)$ における接線の方程式は $y = 2bx - b^2 \quad \dots \textcircled{2}$

①, ② を解いて $R\left(\frac{a+b}{2}, ab\right)$

直線 PQ の方程式は

$$y - a^2 = \frac{b^2 - a^2}{b - a}(x - a) \quad \text{すなわち} \quad y = (a + b)x - ab$$

直線 PQ 上の x 座標が $\frac{a+b}{2}$ である点を M とすると $M\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a^2+b^2}{2}\right)$

このとき $MR = \frac{a^2+b^2}{2} - ab = \frac{1}{2}(b-a)^2$

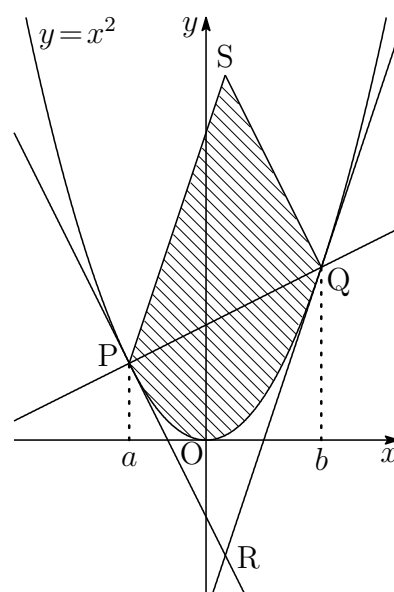
よって $\triangle PRQ = \frac{1}{2}MR \times (b-a) = \frac{1}{2} \times \frac{1}{2}(b-a)^2 \times (b-a) = \frac{1}{4}(b-a)^3$

(2) 直線 PQ と放物線 $y = x^2$ で囲まれた部分の面積は

$$\begin{aligned} & \int_a^b \{(a+b)x - ab - x^2\} dx \\ &= - \int_a^b (x-a)(x-b) dx \\ &= \frac{1}{6}(b-a)^3 \end{aligned}$$

$\triangle PSQ$ の面積は $\triangle PRQ$ の面積に等しいので、上式および (1) の結果から、求める図形の面積は

$$\frac{1}{6}(b-a)^3 + \frac{1}{4}(b-a)^3 = \frac{5}{12}(b-a)^3$$



(3) $\angle PRQ = 90^\circ$ のとき, 直線 ①, ② は直交するので

$$2a \times 2b = -1 \quad \text{ゆえに} \quad a = -\frac{1}{4b}$$

これを ② の結果に代入すると $\frac{5}{12} \left(b + \frac{1}{4b} \right)^3$

ここで, $b > 0$ であるから, 相加平均と相乗平均の関係により

$$b + \frac{1}{4b} \geq 2\sqrt{b \times \frac{1}{4b}} = 1$$

よって, 求める最小値は $\frac{5}{12} \cdot 1^3 = \frac{5}{12}$

補足

放物線と放物線の2本の接線で囲まれた図形の面積 S_1 と, その2つの接点を結ぶ直線と放物線で囲まれた図形の面積 S_2 の比は, $S_1 : S_2 = 1 : 2$ である. また, 2本の接線の交点の x 座標は, 2つの接点の中点の x 座標と等しい.

